

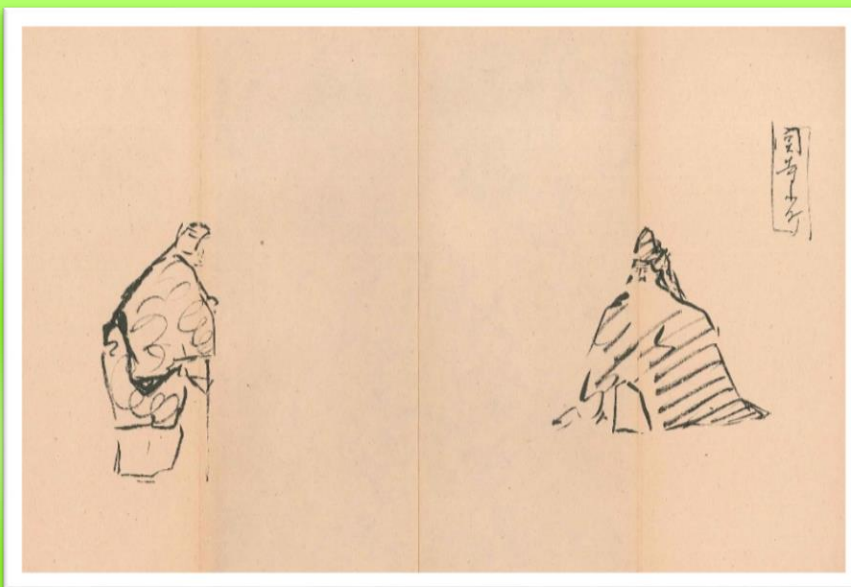
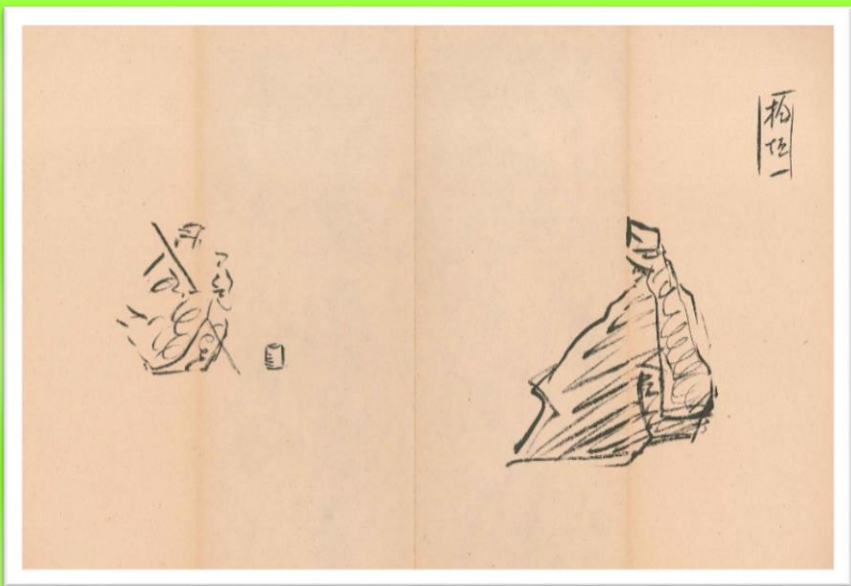
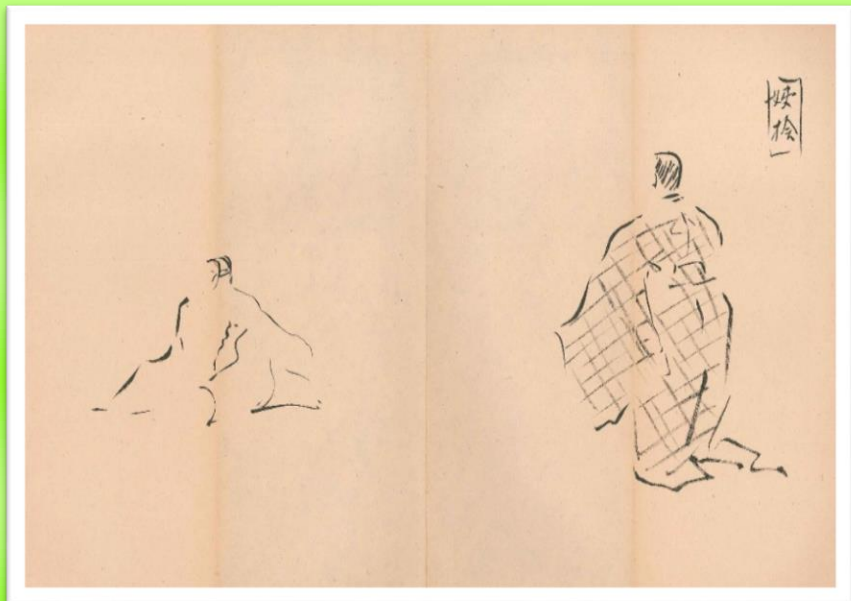
江崎家の近代

—福王流ワキ方能楽師の明治・大正・昭和—

期間：二〇二一年三月一日（月）～四月三十日（金）

午前十時～午後五時 土日祝日休室

場所：神戸女子大学古典芸能研究センター展示室



沼艸雨筆「梅若万三郎翁三老女記念画帖」
上「姨捨」中「桧垣」下「関寺小町」

ワキ方福王流の名門・江崎家は、江戸時代から三百年以上にわたって、姫路を拠点に活動を続けてきました。二〇一五年度、神戸女子大学古典芸能研究センターは、江崎家から約千点にのぼる貴重な能楽資料の寄贈を受け、二〇一六年には一部の資料を用いた企画展を開催しました。このたび、江崎家旧蔵資料を紹介する第二回目の展示を、近代の江崎家をテーマに行います。明治・大正・昭和という激動の時代に、江崎家の代々の当主は、どのような活動を通して能楽を守り広めていったのでしょうか。その足跡を数々の資料とともに辿ります。